

ご近所イノベーション学校

KEIO×MINATO Gokinjo Innovation School

自分を生かして、まちを活かす。新しい地域づくりを、港区から。

東京なのにローカル。港区芝地区では、人口4万人の小さな地域づくりに取り組んでいます。本格的な少子高齢社会を迎える現在、地域には、生活の基盤としての「つながり」や「支え合い」の再生・創出が求められています。しかし、こうした「つながり」や「支え合い」は、行政の施策によって直接生み出すことはできません。そこで、港区芝地区総合支所と慶應義塾大学は、地域づくりを担う人財じんざいの育成をめざし、「ご近所イノベーション学校」というプロジェクトをスタートしました。学校のテーマは、「自分を生かして、まちを活かす」。自分の想いを実現しながら地域生活に豊かさや幸せを生み出す、新しい地域づくりを担う人財「ご近所イノベータ」の養成をめざしています。少人数制講座での対話を通じた学びの過程で受講者は互いに信頼し合える仲間となり、学校からは、地域に新しい価値を生み出す多様な活動がはじまっています。また、活動を通じて地域には多くの「つながり」や新しい「支え合い」のかたちが創出されています。こうしたまったく新しい地域づくりのはじめの一步。それが「ご近所イノベーション学校」なのです。

学校からのメッセージ
message



坂倉 杏介
kyosuke sakakura

一人ひとりが地域に居場所と役割を持ち、それぞれの人生を主体的に生きることができれば、そのまちは自然に生き生きとします。芝に住む一人として、私もみなさんと一緒に学び、想いを分かち合う仲間づくりを通じて、「ご近所イノベーション」に取り組んでいきたいと思っています。人口4万人の芝地区。東京ローカルの小さなまちづくりから、港区を、日本を変えていきましょう！

ご近所イノベーション学校講師
慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所 客員研究員
東京都市大学都市生活学部 准教授



荒川 正行
masayuki arakawa

港区芝地区総合支所
協働推進課 課長

「ご近所イノベーション学校」では、いい歳した大人たちが本音で語り合い、{(秘めた想い+仲間の共感)×遊びゴコロ}で、まちのあちこちに「ご近所イノベーション」の種まきをしています。こんなワクワクする場、魅力的な仲間たちに出会った途端、誰もが未来の「ご近所イノベータ」に！
今日よりちょっとだけHappyなまちづくり、私たちと一緒に始めましょう。



長津 結一郎
yuichiro nagatsu

職業も性格も住まいもばらばらな人々が集うこと。人の言葉をただただ待ち、ひたすら聴くこと。自らのやりたいことに向き合うこと。ご近所イノベーション学校は、そんな場を一つひとつ積み重ねるところから始まります。発見もあれば衝突もある、学びもあれば絶望もある。私はそんな受講生の人間模様を支えながら、ともにこの新しい試みに向き合っています。

ご近所イノベーション学校講師/事務局
慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所 研究員
NPO法人多様性と境界に関する対話と表現の研究所 代表理事

GOKINJO INNOVATION SCHOOL

ご近所イノベーションってなに？

what is Gokinjo Innovation?

- 1 東京なのに、ローカル。**
都心部で人口4万人の小さな地域づくり。
- 2 「課題解決」から「価値創造」。**
やりたいことを、まちにつなげる。
- 3 実践を通じたつながりの創出。**
地域に信頼できる仲間を増やす。

地域で、地域と動いてみよう

地域にはすでに、多くの経験、力を持った方々が暮らしています。けれども暮らしのなかで、その力を生かす機会をもっていないことがあります。そうした力の使い方を自分で考え、実践していくことのできる「人財」が、いまどの地域にも求められています。いまは受け身ではなく、みんなが経験や力を出し合って組み合わせ、価値を生んでいく世の中になってきています。課題解決型の一方向のやりとりは、課題が明確な場合には有効です。けれども、現代社会では課題が明確でないことが多い。だから、その解決方法を生み出す仕組みをつくっていか

ることが重要になります。ご近所イノベーション学校では、受講生のみなさんにそうした価値創造型のまちづくりの担い手となって活躍していただきたいと考えています。
まちに住み働く人たちがお互いに支え合える関係をもつこと、共にまちを考え創ることのできる場をもつこと。そのふたつが、新しい地域づくりには欠かせません。一人ひとりがワクワク楽しみ関わり合うことで、まちづくりにつながることを体験してほしい。小さいことでも、動いてかたちにしてみるから出会い、可能性が生まれてきます。まずは動いてみましょう。



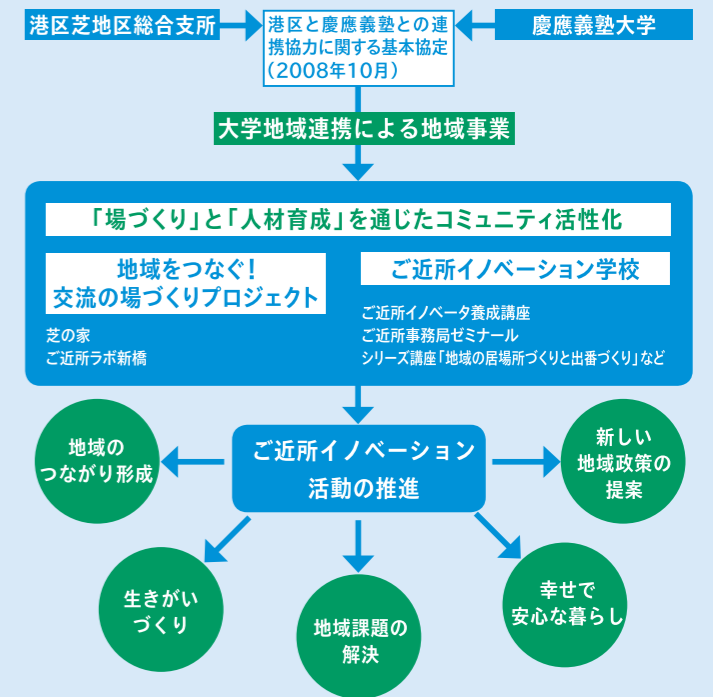
武山 政直
masanao takeyama

ご近所イノベーション学校校長
慶應義塾大学経済学部教授

港区と慶應義塾大学の連携

港区芝地区総合支所と慶應義塾大学は2008年より、大学地域連携による地域事業を実施してきました。そこでめざしているのは「場づくり」と「人材育成」を通じたコミュニティの活性化です。

その核となるプロジェクトのひとつが、「ご近所イノベーション学校」。まちに住み働く人たちが主人公となり、主体的に活動を起こしていくことで、まちが育つ仕組みづくりをしたという考えから2013年に始まりました。また、「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」も展開しています。こうしたプロジェクトをとおし、まちに暮らす一人ひとりが主体的な活動を起こすことができる環境づくりと、その活動のサポートを行い、コミュニティの活性化を実現していきます。さらに、ご近所イノベーション活動を推進していくことで、新しい地域政策の提案や、幸せで安心な暮らし、地域課題の解決、生きがいづくり、地域のつながり形成などを可能にしていきます。



ご近所イノベータ養成講座

土・日曜日を中心に約4か月の間、5つのフェーズに分かれて展開されています。

自分の〈持ち味〉を知る
 地域に〈仲間〉を増やす
 〈経験〉と〈スキル〉を育む
 地域の〈見方〉を養う
 —やりたいことを、まちにつなげる。

講義とワークショップのほか、チームでのプロジェクトの実践や「芝の家」におけるコミュニティ体験を通して「自分のやりたいことをまちにつなげる」技法を学ぶ、少人数制(定員20人)の実践型講座。講座内で学びが終わるのではなく、講座の修了が具体的な実践のはじまりと考え、受講後にも生きるネットワークづくりとアイデアの技法を身につけることを主眼とした講座です。

プログラム program

1 導入 参加者同士のチームビルディング



仲間がいることで明らかになる、自分の「持ち味」を知ることから始まります。

講座例
 ここからはじまるご近所イノベーション/想いを実現するために知っておきたいことは？

2 講義とディスカッション 地域課題の理解



港区や他地域の現状や地域活動の実践を知ること、「まち」について学びます。

講座例
 港区の現状と課題/コミュニティをつくる市民のあり方/地域福祉とつながりをめぐって/普通の人々が社会を変える/ご近所イノベーション事例100

3 地域コミュニティの現場 「芝の家」などにおけるコミュニティ体験



コミュニティ体験を通じ、地域活動への思いをふくらませ、体験をフィードバックします。

講座例
 暮らしにふれる「旅」～芝の家で過ごす1日～/芝の家体験を振り返って/ご近所で活躍中の先輩に聞く!

4 演習 グループによる地域活動の計画と実践



「やりたいことを、まちにつなげる」ための手法を学び、地域のなかで小さな実践を行います。

講座例
 アイデアを発明する～地域イノベーションの技法/アイデアの実現のための計画をつくる/システムデザイン思考によるアイデアのブラッシュアップ/フィールドワークの発表と実行計画書の作成

5 まとめ シンポジウムでの発表



シンポジウムでは、地域の皆さんを招いての活動発表とともに、活動を広げるきっかけを得ます。

講座例
 シンポジウム「ご近所イノベーションの時代」(慶應義塾大学)/現場に向けて・・・/修了式



講師からのメッセージ message

人が元気だと地域が元気になる。各地にうかがうたびにそう実感します。ご近所イノベータ養成講座は、自分の夢を叶えよう、そして地域をよくしようと奔走する人を支える、学び合いの場です。同じような志を持った仲間とのつながりは何よりの財産。一人の元気が仲間に伝わり、仲間の元気が地域に広がり、ご近所イノベータ養成講座が地域の元気の発信基地になることを期待しています。

慶應義塾大学総合政策学部教授 **飯盛義徳**

自分の見方を変えると、いつもの街は違う風景に見える。思っていることを口に、周りの声に耳を傾けると、いつもの街に新しいつながりが生まれる。それがご近所を変え、地域・社会を変え、自分を変える、ご近所イノベーションの第一歩。たくさん話し、たくさん聴き、たくさん仲間をつくって、たくさん笑い、そこから変化を自分たちの手で生み出してしましましょう!

株式会社エンパブリック 代表取締役 **広石拓司**

お金を出せば「便利に暮らすこと」は実現できるかもしれませんが、でも「幸せに暮らす」ためにはご近所付き合いが重要な要素となるでしょう。「では最初の一步をどうすればよいのか?」「どうすれば活動が広がっていくのか?」その点について詳しく学ぶだけではなく、本当にそれを実現してしまう実践も含めた講座です。誰かがやってくれるのを待つのではなく、自分が未来をつくる側に回る楽しみをぜひ味わってください。

津屋崎ランチLLP代表、LOCAL&DESIGN 代表取締役 **山口 覚**

イノベータになるためのキーワードは、内と外とを隔てない「オープン」、上下関係を取っ払う「フラット」、枠をつくらない「フレキシブル」の3つ。先入観や思い込みが枠をつくってしまいます。枠の中では枠の大きさ以上のものは生まれません。イノベータになるためには枠を取っ払うこと。まず行動し、そのなかで見えてきた問題や課題を一つずつ潰していくことが重要です。Just Do It(やったらえんちゃうん)!

NPO 法人グリーンバレー理事長 **大南信也**

地域をつなぐ! 交流の場づくりプロジェクト

「芝の家」や「ご近所ラボ新橋」などと連携し、さまざまなアイデアや想いをかたちにしていく場、つながりと活動を生み出す場を提供しています。

芝の家



写真:金原英二

対等な関係で、話をしたり、聴いたり、ちょっとしたアイデアをかたちにできる場。小さいけれどたくさんの可能性を持った場でありたいと思っています。

2008年開設。地域のあたたかい人と人とのつながりの創生をめざす「地域交流」の拠点。様々な人が出会い、つながることで、暮らしやすいまちを共に考え創っていく機会を提供しています。

●港区芝3-26-10



りょうこ (加藤亮子)

ご近所ラボ新橋



ご近所に住んでいる人も働いている人も、そうでない人も気軽に立ち寄れる。ここでの出会いが、新しい「なにか」を生み出すきっかけとなればいいですね!

2014年開設。「ここからはじまるご近所イノベーション」をテーマに、さまざまなアイデアや想いをかたちにしていくラボ。公共施設きらきらプラザ新橋1階の区民協働スペースを活用し活動を展開しています。

●港区新橋6-4-2 きらきらプラザ新橋1階



りょうこ (清水りょうこ)

修了生に聞きました

Q ①どんな活動? ②はじめたきっかけ ③実施するなかで感じたこと

おいしいで幸せ朝時間をつくる 朝市切符

①キャッチコピーは「おいしいでつなぐ、幸せ朝時間をつくりませんか?」。地方食材をテーマに、朝ごはんと一緒に食べる場をつくることで、人と人、地域と人をつないでいく活動です。
②港区は1世帯、平均1.8人。そして若者と高齢者が世代的に多いです。つまり、一人で朝ごはんを食べている人が多い。それなら、その時間を一緒に過ごせたらいいのでは、と。
③近隣の単身者やご家族連れ、いろいろな方にご参加いただいています。定期的で開催しながら、継続できる仕組みもつくってきたい。自分もちろんですが、いろんなところで、いろんな人に、やってもらいたいと思っています。



えはじゅん
(江原潤)

本音で話せる場をつくる おしゃべり美術館

①港区内の美術館に行き、作品をみながらおしゃべりする活動です。テーマにあった展示をみて、感じたことを言葉にすることで、本音で話せる場が自然に生まれるのをめざしています。
②日常生活で本音を語る機会が少ないという実感から、話せる場をつくりたいと考えました。でも場だけでは、成り立たない。そこで、そのきっかけとして作品をみるというアイデアが生まれました。
③自分自身、育児休業に入ってから、社会から分断されている感覚がありました。活動を通じ、立場に関係なく集まり、話せる場をつくってきたいです。一緒に鑑賞し、自分の枠が広がる楽しさをぜひ味わっていただきたいです。



ばたみ
(板谷友香里)



みぎ
(中林美樹)

引越越しを機に、地域、コミュニティに関心を持つようになりました。講座で受講生同士が話すなかで少しずつ影響をうけ、考え方が変わってきました。何かを決めるとき、自分にとっての成果よりも、社会的効果を重視し、どうしたらより人を巻き込めるかなどを考えるようになりました。



アコ
(廣升敦子)

他地域の事例に学ぶ 24時間トークカフェSAGA

①地方にある先端事例や食材、人々と「東京・新橋」をつなぎ、これからの社会について語りあかし、食べあかす24時間イベントです。今回のテーマは佐賀県。ゲストには佐賀県最高情報統括監や佐賀県出身港区在住の建築家などを迎えました。
②知る人ぞ知る、佐賀は国内最先端の地域活性事業に取り組み、さまざまな成功例がある地域。実際に取り組みを仕掛けた方々のお話は新橋エリアの地域づくりにも役立つと思ひ、企画しました。
③のべ180人以上の方に参加いただき、互いの顔がみえる交流をつくることが嬉しかったです。企画から実施まですべてに関わる「事務局」のおもしろさを実感しました。



ミコ
(清家瑞穂)

未来の大人に逢いに行く FUTURE BAR

①「未来のオトナに、逢いに行く」をコンセプトに、人生の先輩をお迎えし対話する場です。バームーンみたいな雰囲気、参加者もただ聴くだけでなく、自分の話をしたくなるような双方向的な関わりができる空間をめざしています。
②介護の仕事をしていて、お年寄りとお話することが多いのですが、いろんな気づきがあるんですね。これを一人占めするのはもったいないなと思ひ、学校の仲間に提案しました。
③人の出会いの相乗効果で成り立った企画だと感じています。この企画にならと、魅力的な人を紹介していただくこともありました。出会いをおし、それぞれの人が自分の人生を考えるきっかけになればと思っています。



ぶらす
(加藤治弥)

地元の中高生が中心に行っているイベントの実行委員長を務めることになり不安があったとき、この講座がヒントになるかもと思ひました。「人の話をよくきく」ことの重要性を感じ、イベントでも地元商店街との会議を行ったら、例年よりスムーズにすんだことがたくさんありました。



まいこ
(越智麻衣子)

ご近所イノベーション学校を受講したことが実際にどのような活動につながったり、影響しているか、修了生に聞きました。

縦型長屋につながりを生み出す 本とほんとコミュニティ

①不要になった本を交換し合うブックチェンジを入りに、コミュニティをつくっていく活動です。「本が人をつなぐ、人のほんをを引き出す」という考えから、この名称となりました。
②近年、増加している高層マンション。私も高層階に住んでいて、震災時、大きな揺れと本の落下の危険性を痛感しました。また、日頃近隣と交流がないと、災害時孤立する可能性があります。そうした課題の解決法として立案しました。
③マンションは縦型の長屋。住民同士のつながりの重要性を感じている人は多いです。要望に応え、出張で行ったり、ノウハウを提供したりしてきました。今後も継続して実施していきたいです。



コニー
(小西貴彦)

隣人の視点で街をとらえる さかさガイド

①あえて生粋の地元民ではなく、新住民がガイドとなる「住民が住民を案内するツアー」です。まずは「港区に住む外国人」の方をガイドに迎え、日頃つながりのない住民がつながるきっかけづくりをしています。
②学校の合宿の際、みんなで散歩をしたことがきっかけです。それぞれの価値観、視点から見える街並みには普段気づかなかった発見が隠されている。その面白さを企画に発展させました。
③時間と気持ちを共有することで、その街を誇らしく思うようになるのが嬉しい。また参加者も昔ながらの情報やお気に入りの場所などについて話すうちに、お互いの距離が縮まるのもこの企画の魅力だと感じています。



まさみ
(笹本雅美)

ともこ
(大川朝子)

「無縁社会」という言葉が気になっていた当時、講座案内を見て受講を決めました。受講者同士をコミットさせる講座内容で、同じような関心を持つ方と結びつけていただけたことが、自分にとっては大きな収穫でした。



しんゆう
(中根信雄)

受講した感想

“ご近所”に対し、ずっと辺境性を感じていましたが、講座のなかでゆるくつながることのできる“ご近所”を体感し、つながりのずっと先に自分がいると思えるようになりました。互いに排除せず、学び合い、育ち合える“学校”に出会えたことをとてもラッキーだったと思っています。



あん
(入江杏)

自分自身の経験から、みんなで共感しながら、子育てを楽しめる何かがあったらいいなと思っていました。受講中に企画実施したワークショップで出会ったメンバーと、いま、親子向けに手仕事の場をつくっています。実際に動かすなかで輪が広がることを実感しました。



あやこ
(池田綾子)

「ご近所」に「イノベーション」!? この落差のある2つの単語に惹かれ受講しました。予想はしていたものの参加メンバーの背景は20人20色、多士多済。プロジェクト発表会に向けて「互いを活かす」挑戦が始まりました。さてその結末は……。みんなのこの笑顔です♪



りっきー
(大橋力)

地域活性のなかでも「都心の課題」、都心の孤独感という自分リアルに感じている課題に関心がありました。講座内で経験した正解のないワークショップは難しいけど、面白かったです。プロジェクトを実践するためにチームで共有した時間は今でも宝物です。



みちこ
(金井路子)

<http://gokinjo-i.jp/>

発行：ご近所イノベーション学校 編集：井尻貴子 デザイン：吉村雄大 撮影：飯塚正倫、坂倉杏介、長津結一郎 印刷：協進印刷
問い合わせ：港区芝地区総合支所協働推進課地区政策担当 TEL:03-3578-3192 FAX:03-3578-3180

<http://www.city.minato.tokyo.jp/>

ご近所イノベーション学校

港区芝地区総合支所
慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所

事務局（2013年度）

荒川正行・皆川浩・根本瞳
（港区芝地区総合支所）
坂倉杏介・長津結一郎
（慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所）
堀尾祥久・井手大・岡添弘子

事務局（2014年度）

荒川正行・皆川浩・田頭達也
（港区芝地区総合支所）
坂倉杏介・長津結一郎
（慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所）
廣升敦子・浅田葉子